

平成 16年 3月期

第 1 四半期業績の概況 (連結)

平成 15年 7月 31日

上場会社名 カシオ計算機株式会社

(コード番号: 6952 東証、大証第 1 部)

(URL <http://www.casio.co.jp>)

問合せ先 代表者役職・氏名

取締役社長 榎尾 和雄

責任者役職・氏名

常務取締役 経理・資金・IR担当 高木 明德

TEL (03) 5334 - 4852

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

会計処理の方法の最近連結会計年度における : 無
認識の方法との相違の有無

連結及び持分法の適用範囲の異動の状況
持分法 (新規) 1 社 (除外) 1 社

2. 平成16年 3月期第 1 四半期の業績概況(平成 15年 4月 1日 ~ 平成 15年 6月 30日)

経営成績 (連結) の進捗状況

	売 上 高	営 業 利 益
	百万円	百万円
16年 3月期第 1 四半期	102,658	3,014
(参考) 15年 3月期	440,567	17,914

(注) 記載金額は百万円未満を四捨五入して表示しております。

[経営成績 (連結) の進捗状況に関する定性的情報等]

当該四半期におけるわが国経済は、デフレの継続、米国経済の減速など依然厳しい環境が続きましたが、一方では企業業績の回復や、金融機関への公的資金投入による金融不安の後退、四半期後半の株式市況回復など先行きの景況感に明るさが出てきました。当社関連市場につきましても、デジタルカメラ、携帯電話など IT 関連商品の需要拡大と、それに伴う半導体・電子部品の需要回復など底堅い動きを示しました。このような環境のもと当グループは、デジタルカメラ、電子辞書、電波・ソーラー時計、TFT 液晶といった戦略事業を強力に推進・展開してまいりました。その結果、売上高は前年同期の概算値 (約 890 億円) と比較し、約 15% 増の 1,026 億円となりました。

セグメント別に見ますと、エレクトロニクス機器事業の売上高は、780 億円となりました。コンシューマ部門は、エクシムシリーズの新製品として、320 万画素、光学 3 倍ズームレンズ、2.0 型大型液晶モニターを搭載した EX-Z3 が国内で首位を独走するなど、デジタルカメラが好調に推移し、また、圧倒的シェアを誇る電子辞書が更に大きく拡大するなど順調に推移いたしました。時計部門は、電池交換不要のソーラー駆動システムを搭載した電波時計が好調に推移し、今期注力している海外市場の需要期である上期後半以降の拡大に向け順調な滑り出しを見せました。

MNS 部門の減収については、au 向けの戦略新製品が前年第一四半期は期初より寄与いたしました。今年度は 5 月末からの発売となったことによるものです。しかしながら au ブランドでは初のメガピクセル携帯電話は現在予想を上回る好調を維持しております。更に韓国 LG テレコムと携帯電話分野で提携、同社との協力に基づく新製品を、韓国市場に向けて 7 月中旬より発売するなど今後の事業拡大に繋がる展開となっております。情報機器部門は、いまだ市況の回復が見えない中、ほぼ予想通りの進捗となりました。

デバイスその他事業の売上高は、デバイス部門が堅調に推移し、245 億円となりました。デバイス部門は、TFT がデジタルカメラや携帯電話向けで予想を上回ったことと、カシオマイクロニクス(株)のフィルム事業の売上増により、大幅に伸ばいたしました。その他部門は、フレクストロニクス社との製造委託提携により愛知カシオ(株)の独自事業を整理した影響により減収となりました。

損益につきましては、戦略事業の商品力強化による付加価値の改善、経営効率化の推進等利益体質の強化に努めた結果、営業利益はエレクトロニクス機器事業で 28 億円、デバイスその他事業で 11 億円、消去又は全社考慮後の連結合計としては、前年同期の概算値 (約 6 億円) を大きく上回り、約 5 倍の 30 億円となりました。

3. 平成16年 3月期の連結業績予想(平成 15年 4月 1日 ~ 平成 16年 3月 31日)

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	1 株当たり予想 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
中 間 期	220,000	6,000	3,000	11.11
通 期	480,000	15,000	8,000	29.63

[業績予想に関する定性的情報等]

当初予想通り順調に推移しております。

業績予想については、現時点で入手された情報をもとに判断した予想であり、実際の業績は様々な要因により予想とは大きく異なることもありえます。

事業の種類別セグメント情報

当四半期（平成 15 年 4 月 1 日 ~ 平成 15 年 6 月 30 日）

（単位：百万円）

	エレクトロニクス機器事業	デバイスその他事業	計	消去又は社連	結
売上高					
(1)外部顧客に対する売上高	78,092	24,566	102,658		102,658
(2)セグメント間の内部売上高	350	7,468	7,818	(7,818)	
計	78,442	32,034	110,476	(7,818)	102,658
営業費用	75,566	30,847	106,413	(6,769)	99,644
営業利益（又は営業損失）	2,876	1,187	4,063	(1,049)	3,014

【参考】

前期（平成 14 年 4 月 1 日 ~ 平成 15 年 3 月 31 日）

（単位：百万円）

	エレクトロニクス機器事業	デバイスその他事業	計	消去又は社連	結
売上高					
(1)外部顧客に対する売上高	350,145	90,422	440,567		440,567
(2)セグメント間の内部売上高	1,827	29,571	31,398	(31,398)	
計	351,972	119,993	471,965	(31,398)	440,567
営業費用	334,161	115,180	449,341	(26,688)	422,653
営業利益（又は営業損失）	17,811	4,813	22,624	(4,710)	17,914

連結部門別売上高

部 門	期 別	当四半期 (15.4.1 ~ 15.6.30)			【参考】前 期 (14.4.1 ~ 15.3.31)	
		百万円	構 成 比	前年同期増減比	百万円	構 成 比
コ ン シ ュ ー マ (電卓、電子辞書、デジタルカメラ等)		百万円	%	%	百万円	%
		36,726	35.8	52	142,486	32.3
	時 計	14,549	14.2	0	68,500	15.6
	M N S (セルラー、PDA等)	18,140	17.7	28	87,819	19.9
情 報 機 器 (電子レジスタ、オフィスコンピューター、ページリソグ等)		8,677	8.4	4	51,340	11.7
エレクトロニクス機器事業 計		78,092	76.1	7	350,145	79.5
デ バ イ ス (LCD、BUMP受託加工等)		18,624	18.1	89	60,566	13.7
	そ の 他	5,942	5.8	5	29,856	6.8
デバイスその他事業 計		24,566	23.9	52	90,422	20.5
合 計		102,658	100.0	15	440,567	100.0

（注）前年同期の開示は行っておりませんが、当四半期の前年同期増減比につきましては、当四半期と同様の方法により算出した前年同期の概算値を使用しております。